

アクティブ・ラーニング ノ ススメ in かがわ

アクティブ・ラーニングで 学習意欲を高めよう！

- 1 能動的な学習に向かう課題づくり！
- 2 学び合いで意欲が高まる！ 自信ができる！
- 3 教師に求められる集団づくりと授業づくり！





児童生徒の学習意欲には、単元や本時の課題設定が大きくかわります。児童生徒の内面を理解しながら、能動的な学習に向かう課題を設定していくことが大切です。

学習する児童生徒の具体的な学びの姿を考える

児童生徒は、もともと「知りたい、できるようになりたい」という気持ちをもっています。その気持ちをより高めるために教師は、児童生徒の視点に立ち、「自分のこだわりを追究する」「課題の解決のために友達と考えを練り合う」など、具体的な学びの姿を考えることが大切です。

そして、児童生徒が人や社会、自然とのかかわりの中で「なぜ？ もっと知りたい」「みんなで解決したい。友達はどう考えているの？」と積極的に学びたくなる課題を、児童生徒の言葉を生かしながら設定していきましょう。



【牟礼小学校※】

能動的な学習に向かう課題を設定するための2つの要件！！

○主体的な学習

深く考え、自ら解決したくなる課題

課題との出会わせ方を工夫し、解決に向けた多様な見方・考え方が生まれる課題を設定することで、深く考えようとする意欲が高まります。

○協働的な学習

集団で解決する必要がある課題

他者に相談したくなる課題、他者との学び合いによって解決できそうな課題を設定することで、協働的に解決していく必要性が生まれます。

例【小学校 第5学年 理科「魚のたんじょう」】

体験を通してみんなの願いを解決したくなる課題
みんなで学校のメダカを増やしたい！

【主体的】

メダカを増やすには、きっと雄と雌が必要だよ。雄と雌の体にはどんな違いがあるのかな？

【協働的】

メダカのすみかをみんなで一緒に作ろう。どんな環境が大切なのか、グループで調べよう。



例【高等学校 公民科（現代社会） 「共に生きる社会を目指して」】

持続可能な社会の形成に参画したくなる課題

国内外のごみ問題に対して
私たちはどんな対応をすればいいの？

【主体的】

ごみ処理の方法や予算は、国や住んでいる地域によって違う！どうして違うのだろうか？

【協働的】

みんなの問題として、国内外の取組について調べたり話し合ったりしたことをまとめて、町の担当課に提案しよう！



例【中学校 第2学年 数学科「確率」】

自他の考えを聞き合いたくなる課題

くじに当たりやすさはあるのかな？

【主体的】

後から引いた方が当たるような気がするよ！でも、くじは公平でなければいけないよね？



【協働的】

実際にみんなで確かめてみよう。くじが公平である理由を友達はどう考えているのかな？

2 学び合いで意欲が高まる！ 自信ができる！

講義形式の一斉授業から、児童生徒が主体となり協働する授業へ。授業の質的転換を図るには**小集団での学びと学び合う環境づくり**は欠かせないものです。交流方法の工夫で、児童生徒の学習意欲をさらに高めたり、考えを確実にもたせたりすることができます。



目的に応じた小集団設定が協働的な学びをつくる

ペアやグループ学習は、それぞれに特性があり、期待される効果も違います。**学習内容、学習場面に照らし合わせて**、適切な学習集団を設定し、児童生徒の学びに深まりや広がり期待でき、協働的なものになるよう工夫しましょう。

【ペア学習】



【坂出小学校※】

ここ、いいね。
ぼくも〇〇さんのように
やってみよう。もっとよ
くなりそうだ。

能動的な視点

主体的: 全ての児童生徒が参画できます。
協働的: 気軽に話し合いができます。

【グループ学習】

どうやった？ あ、それいい！
でも、なんか違うような…？

グループの人数を少なくすることで発言
の機会が増えたり、話し合いに参加しやす
くなったりします。



【観音寺中学校※】

能動的な視点

主体的: 3人以上のグループで考えをつくり、自信がもてます。
協働的: 多様な意見を比較・統合し、考えが高まります。

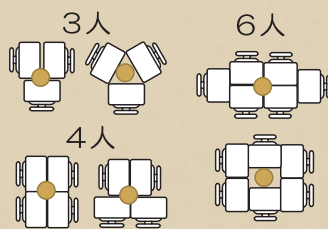
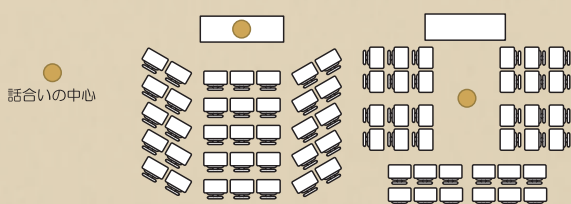
一人で分かりかけてきたら、ペアやグループで考えをつくる！

ペアやグループのとき、一人ひとりがしっかりとした考えを必ずもたなければならぬことはありません。一人で少し考えてみたあと、**「ペアやグループで考えをつくる」**という方法もあります。分かりかけていることを友達に話しかけ、いっしょに考えることで、安心感をもって交流できます。そのような話し合いの中で、自分だけでは解決が難しい児童生徒も多様な見方・考え方にふれ、内容を理解したりお互いに認め合ったりすることができます。

学び合いを活性化させるフロアデザイン！

児童生徒が授業の主体になるときは、**机の配置を工夫**することで学び合いを活性化させることもできます。

顔が見える、ノートが見えるように、例えば、全体であればコの字型に、グループは向かい合わせに…など、授業展開に合わせて机の配置をアレンジすると、活動モードにチェンジできます。



【協和中学校※の机のアレンジ】

※アクティブ・ラーニング研究推進モデル校（平成27年度）：高松市立協和中学校、観音寺市立観音寺中学校、高松市立牟礼小学校、坂出市立坂出小学校

3 教師に求められる集団づくりと授業づくり！

教師には、学級経営としての「**学びに向かう集団づくり**」と学習指導としての「**意欲的に取り組む授業づくり**」の2つの視点から相互の関連を図った取組が求められます。



学級経営の視点：学びに向かう集団づくり

教師は、日頃から児童生徒に、仲間のもつ様々な意見を大切にしようとする意識や一面的な見方で他者を評価しない態度を育てることを積み重ね、**支持的風土**のある学習の場をつくりましょう。

アクティブ・ラーニングが機能すれば、学習の場は、児童生徒一人ひとりが自分の存在感をもち、共感的な人間関係を育む「**心の居場所**」となるでしょう。

学習指導の視点：授業づくりの5つのポイント

教師には、必要な知識や技能を教授するとともに、児童生徒に発言を促したり、気付いていない視点を提示したりするなど、児童生徒が能動的に学習に参加できるように指導方法等を工夫した授業づくりが求められています。

そのために教師は、次のことに留意しましょう。

① 児童生徒が取り組むべき課題を明確にした授業展開を計画する

課題の発見・解決に向けた主体的・協働的な学びの視点から計画する。その際は、「どのように学ぶか」を重視することも大切にする。

② 授業規律など、授業のあるべき姿を児童生徒と共有する

児童生徒が聞き合ったり、教え合ったりすることができる時間を保障するとともに、授業のあるべき姿として規律・ルール※を共有することで、授業に参加することへの安心感をもたせる。

[※(例) 聞くことは大切、問いかけには進んで応じるなど]

③ 児童生徒の発言を大切に受け止め、学習活動の中に位置付ける

児童生徒の発言に価値を見だし、認める。間違っても大丈夫といった安心感をもたせる助言を行ったり、発言を積極的に授業の展開に生かしたりする。

④ 児童生徒の多様な意見を認め、課題に対して協調的な解決を導く

他者の意見を傾聴したり、客観的に判断したりすることを通して、自身の意見を修正したり、新しい意見を導き出したりすることを体験することで、学習活動からの自己有用感をもたせる。

⑤ 全ての児童生徒に学びの過程やその成果を振り返らせる

児童生徒が発言や表現物を使ってまとめるなど、振り返りの記述や事後テストなどの機会を設定し、学習の成果を実感させるとともに、次時の学習課題に気付かせる。



アクティブ・ラーニングの参考資料を香川県教育センターWebサイトに掲載していますのでご参照ください。また、研究についてのご相談等がありましたら、香川県教育センター教育研究課までご連絡ください。



〒761-8031 香川県高松市郷東町587-1
TEL 087-813-0931 (教育研究課 直通)
FAX 087-881-3270
<http://www.kagawa-edu.jp/educ/htdocs/>

平成27年10月